

# 高 齡 期

(60歳以上)

教育目標番号 1

内容の柱 第1 郷土の自然や文化の愛護と振興

郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 郷土の自然に親しみ、それを愛護することができる。
B	2 郷土の伝統的行事を若い世代に伝えることができる。
B	3 郷土の文化財を慈しみ、その保護・継承に努めることができる。
N	4 様々な文化的活動に、自主的に参加し、新しい文化の創造に努めることができる。

(2) 具 体 策

- 自然に親しむ各種行事の実施と参加
- 郷土の自然を愛する心の伝承
- 文化財の保護と継承に関する講座の開設と参加
- 民俗芸能の後継者育成と保存
- 地域の伝統的行事の開催と参加
- 芸術・文化事業の開催と参加

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 地域では、民俗芸能の後継者育成と保存に努める。
  - 社会教育機関では、郷土の自然や文化について、体験から得た知識、技能などを若い人たちに伝える場を設ける。
  - 家庭では、郷土の自然や文化を家族に伝える場を設ける。
- ◎ 地域、社会教育機関を中核として、家庭との連携を図りながら、自然や文化の保護と振興発展に努める。

教育目標番号 3

内容の柱 第1 郷土の自然や文化の愛護と振興

自然を敬い、感謝の気持ちを育てる宗教心を養う。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 自然に対する畏敬の念をもち、感謝の気持ちを育てる宗教心を養うことができる。
B	2 家庭や社会の伝統的宗教行事を理解し、進んで行うことができる。
D	3 大自然のいとなみに対して畏れ、敬い、感謝の気持ちをもつことができる。

(2) 具 体 策

- 地域の自然環境保全の推進
- 自然環境保護運動の推進
- 家庭や社会の伝統的宗教行事の実施と振興

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 地域では、自然を大切にする運動を推進する。
  - 地域では、伝統的宗教行事などの継承と振興に努める。
  - 家庭では、それぞれの家庭に伝わる宗教的行事を継承する。
  - 家庭では、ハイキングやキャンプ、家庭菜園などの自然の中での活動を行う。
- ◎ 地域を中核として、家庭との連携を図りながら、感謝の気持ちを育てる宗教心を養うように努める。

## 教育目標番号 11

## 内容の柱 第2 健康・安全の保持増進

健康・安全と体力の保持に努める。

## (1) 達成目標

タイプ	達成目標
A	1 健康状態を知り注意して生活することができる。
B	2 自分の身体の変化の様子を正しく知ることができる。
N	3 年齢や能力に応じた運動に親しみ、健康と体力を保持することができる。
N	4 各種の安全教室に参加し、事故防止に努めることができる。

## (2) 具体策

- 老人福祉センターなどに高齢者健康相談機能を整備
- 健康管理に関する学習機会の提供と参加
- 広報紙などによる健康づくりの啓発
- 高齢者のスポーツ活動、健康づくりの推進を図るための指導員の養成
- 高齢者のためのスポーツ指導員の配置と、高齢者むけスポーツ施設の整備
- スポーツやレクリエーション活動などへの参加
- 高齢者世帯に対する防災知識の普及
- 高齢者に対する交通安全教室などの開設と参加

## (3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、栄養などについて配慮し健康の保持に努める。
- 家庭では、高齢者が各種の学習機会に進んで参加できるように協力する。
- 地域では、高齢者が無理なく参加できるスポーツ行事を開催し支援する。
- 行政では、高齢者がスポーツやレクリエーションを実施しやすいような環境を整備する。
- 地域、家庭では、身近な場所の安全点検と事故防止に努める。
- 交通安全機関では、交通安全に関する講習を開催する。

- ◎ 家庭を中核として、地域、行政、交通安全機関との連携を図りながら、健康・安全点検と事故防止及び健康の保持に努める。

## 教育目標番号 16

## 内容の柱 第3 社会連帯感の育成

地域の集団活動に積極的に参加し、自らの役割を果たす。

## (1) 達成目標

タイプ	達成目標
D	1 自らの体験を生かしながら地域集団活動に参加し、互いの向上に努めることができる。
B	2 地域の人々のためになる仕事を見出し、進んで実行することができる。
B	3 地域の各種行事に参加し、指導的役割を果たすことができる。

## (2) 具体策

- 近隣の行事への協力と参加
- 地域の祭礼など伝統的行事についての指導
- 高齢者人材活用事業の推進
- 自治会活動の指導者として参加
- 世代間交流事業の拡大と充実

## (3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 地域では、高齢者の体験が生かせるような機会を計画的に設定し、地域集団活動を推進する。
- 家庭では、地域集団活動の意義について話し合い、高齢者が自ら進んで参加できるような雰囲気をつくる。

足利市の教育目標

- 学校では、高齢者の経験から学ぶ機会を設定する。
- 行政では、高齢者人材活用事業を推進する。
- ◎ 地域を中核として、家庭、学校、行政との連携を図りながら、地域集団活動への参加と役割を果たすように努める。

教育目標番号 22

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

若い世代の人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 若い世代の人たちと交流することができる。
B	2 若い世代の人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。
B	3 子や孫への深い愛情と理解をもって仲よく生活することができる。

(2) 具体策

- 高齢者学級の開設と参加
- 若い人と高齢者との交流の場の設定と参加
- 身につけた知識・技能を若い人たちへ伝える場の設定

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能関連）

- 家庭では、高齢者が研修会、同好会、近隣行事などへ気軽に参加できるような雰囲気をつくる。
- 家庭では、若い世代の人たちと積極的に会話をを行い、円満な家庭づくりに努める。
- 地域では、研修会、同好会、近隣行事などを通して若い世代との交流の場を設ける。
- ◎ 家庭を中核として、地域との連携を図りながら、若い世代との交流に努める。

教育目標番号 29

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

同和問題をはじめ、人権問題を正しく認識し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
(B)	1 相手の人権を尊重した言動ができる。
(B)	2 同和問題をはじめ、人権問題に一層の理解を深め、差別や偏見のない、よりよい社会を実現するように努めることができる。
(B)	3 同和問題をはじめ人権問題を正しく認識し、市民的課題とすることができる。
B	4 偏見を、若い世代に伝えないようにすることができる。

(2) 具体策

- 同和問題をはじめ、人権問題を解消するための各種の研修会、講演会などの開催と参加
- 人権問題（同和問題）啓発資料の発行とその活用
- 広報紙やパネル展示などによる啓発
- 同和問題をはじめ、人権問題解決のための市民運動の推進
- 父母のための啓発資料の活用

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能関連）

- 地域では、同和問題をはじめ人権問題解決のための活動を推進する。
- 家庭では、家族で同和問題をはじめとする人権問題について話し合い、正しい理解を深め、差別や偏見の解消に向け実践する。

- 職場では、同和問題をはじめ人権問題解決のための研修会、講習会を開催する。
  - 行政では、同和問題をはじめとする人権問題解決のため、研修会の開催や啓発を促進する。
  - 行政では、同和問題をはじめ人権問題を解消するための啓発資料の発行や実践的指導者を養成する。
- ◎ 地域、家庭、職場、行政が一体となり、同和問題をはじめ人権問題を市民的課題としてとらえ、その解決に努める。

教育目標番号 31

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

奉仕を通して生きがいもてる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
D	1 家庭での役割と立場を理解し、協力し合うことができる。
A	2 近所の人々と好ましい人間関係をつくり、奉仕活動に参加することができる。
D	3 地域の人々のためになる仕事を通して充実感を見だし、進んで実行することができる。
D	4 自己の体験を生かし、若い人達へ適切な助言・指導をするなど、生きがいを持つ生活ができる。

(2) 具体策

- 奉仕に関する各種講座、研修会の開催と参加
- ボランティア活動の実施と参加
- 地域ぐるみの奉仕活動の実施と参加
- 奉仕活動を通しての若い人達への助言指導
- 地域クリーン運動などの推進と参加
- 友愛訪問活動や介護奉仕などの地域福祉活動の充実
- 高齢者人材活用事業の推進

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、地域社会との交流を重視し、行事などに参加する。
- 家庭では、高齢者が体験を生かして、家族に指導、助言する。
- 地域では、地域福祉の活動を通して、社会奉仕に参加する。
- 地域では、高齢者が体験を生かして、若い人達に指導、助言する。
- 行政では、各種ボランティアの養成講座の開催と参加を呼びかける。

- ◎ 家庭、地域を中核として、行政との連携を図りながら、奉仕活動に参加するように努める。

教育目標番号 38

内容の柱 第4 よき家庭人の育成

家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
(B)	1 家族の話し合いの機会を積極的に設けることができる。
D	2 心の通い合う言葉づかいをすることができる。
D	3 相手の気持ちを理解し、感謝の心をもつことができる。
B	4 家族が各々の立場にたって、適切な言動をとることができる。

(2) 具体策

足利市の教育目標

- 家庭における豊かな経験の活用
- 家族ぐるみのレクリエーション活動や仕事の実施
- 明るいあいさつ運動の推進

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、家族団らんや共同して仕事をする場をつくるように努める。
  - 学校では、PTA活動を通して明るい家庭を築くための指導を行う。
  - 行政では、明るい家庭を築くための各種事業の実施や研修会を開催する。
- ◎ 家庭を中核として、学校、行政との連携を図りながら、明るい家庭生活が築けるような態度を育てる。

教育目標番号 49

内容の柱 第5 よき職業人の育成

再就職では、身につけた知識や技能を生かすことができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
D	1 身につけた知識や技能を生かすことができる。
D	2 身につけた知識や技能を技術教育や技術研修などの機会に生かすことができる。

(2) 具体策

- 高齢者のための職業相談の充実
- 高齢者むけの雇用環境の整備
- 高齢者に対する技能講習会の開催と参加
- シルバー人材センターの充実

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 公機関などでは、職業訓練や職業相談を通して、高齢者の再就職や知識・技能を生かすことに努める。
  - 企業では、高齢者向きの職種を開拓し、再就職に対する理解を深める。
  - 家庭では、高齢者が持っている技能や知識の生かし方について話し合い、再就職に関し協力する。
- ◎ 公機関など、企業、家庭が一体となって、高齢者が身につけた知識・技能を生かすことに努める。

教育目標番号 57

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 自らの体験を生かしながら地域の集団活動に参加し、互いの向上に努めることができる。
E	2 技能・経験を生かし、生きがいのある生活を送ることができる。
B	3 新しい知識を学ぶことができる。

(2) 具体策

- 高齢者人材活用事業の推進
- 高齢者サークルへの参加
- 高齢者のための各種学級、講座の開催と参加

- 広報紙などにより、経験を生かせるための情報の提供
- 世代間交流事業の実施と指導者としての活用

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能関連）

- 地域では、奉仕活動の場の設定と参加を呼びかける。
  - 家庭では、高齢者に学ぶとともに高齢者サークルや地域活動への参加を支援する。
  - 学校では高齢者の豊かな経験や技能を学ぶ場を設ける。
  - 公機関、行政では、高齢者人材活用事業を推進する。
  - 行政では、成人大学や高齢者学級などを開催する。
- ◎ 地域、家庭を中核として、学校、公機関、行政との連携を図りながら、高齢者としての技能・経験を生かすように努める。

教育目標番号 61

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
(B)	1 物を大切にすることを実践し、若い世代に教えることができる。
(B)	2 資源の有効な活用の大切さを若い世代に教えることができる。

(2) 具体策

- 資源有効活用の啓発や、講習会、展示会などの開催と参加
- 消費生活市民団体への支援
- リサイクル活動への参加
- 電気、水、石油など資源、エネルギーを大切に使うことの実践

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能関連）

- 家庭では、物を大切に使い再生利用などして資源を有効に活用する。
  - 地域では、生活の簡素化やリサイクル運動を推進する。
  - 行政では、資源、製品を有効に活用することや、生活の簡素化について啓発する。
- ◎ 家庭を中核として、地域、行政との連携を図りながら、資源の有効な活用の実践を身につけさせるように努める。

教育目標番号 63

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

進んで計画的に余暇を活用する。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
E	1 自分にあった趣味・特技を身につけることができる。
A	2 家族ぐるみで余暇活動を計画し、楽しく過ごすことができる。
B	3 趣味・特技を生かして有意義に余暇を過ごし、また指導することができる。
B	4 日常生活を合理化して余暇を生み出し、活用に努めることができる。
(B)	5 余暇を地域活動などで有意義に過ごし、生きがいのある生活をするすることができる。
E	6 よい家風や地域の伝統を若い世代の人に伝えることができる。

(2) 具体策

- 余暇活用のための各種学級、講座の開設と参加
- 各種のクラブ、サークル活動の場の開設と参加

## 足利市の教育目標

- 余暇活動やボランティア活動の情報提供と参加
- 高齢者人材活用事業の実施
- 地域などの伝統を若い世代に伝える場の設定
- 生涯学習関連施設の整備と利用

### (3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、余暇活動を理解し協力、支援する。
  - 地域では、高齢者の体験が生かされるような機会を設け、高齢者の趣味、特技の有効な活用を推進する。
  - 学校では、地域の高齢者等の知識、技能が有効に生かせる場を設定する。
  - 行政では、余暇活動やボランティア活動などの情報提供と、施設の整備、各種学級、講座の開設、趣味・特技を生かせる人材活用事業を実施する。
- ◎ 家庭を中核として、地域、学校、行政との連携を図りながら、計画的に余暇の活用ができるように指導する。

教育目標番号 66

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

高齢者としての役割を認識し、情報を若い世代に伝えることができる。

#### (1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 豊かな体験から得た生活の知恵を若い世代に伝えることができる。
E	2 よい家風や地域の伝統を若い世代に伝えることができる。

#### (2) 具体策

- 豊かな体験で得た生活の知恵を若い世代に伝える場の設定と参加
- よい家風や地域の伝統を若い世代に伝える場の設定と参加

### (3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、豊かな体験から得た生活の知恵を家族に伝える。
  - 地域及び行政では、各種の事業、集会、広報紙などを通して高齢者の貴重な体験などを学び合えるように努める。
  - 学校では、高齢者から学ぶ場を設定する。
- ◎ 家庭、地域を中核として、学校、行政との連携を図りながら、情報を若い世代に伝えられるように指導する。

教育目標番号 70

内容の柱 第7 国際社会に生きる日本人としての自覚

国際感覚の上に立って、世界の高齢者の生き方を学ぶことができる。

#### (1) 達成目標

タイプ	達成目標
D	1 各国における高齢者の生活様式や習慣を知り、自分の生き方を考えることができる。
(D)	2 日本のことだけにとらわれず、広く知識を世界に求めることができる。

#### (2) 具体策

- 世界の高齢者の生き方に関する学級、講座の開設と参加
- 地域で生活している外国人との交流の場の設定と参加
- 広報紙などを通して国際情報の提供
- 外国の生活様式や習慣及び外国語を学ぶ機会の設定と参加



**(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能関連）**

- 家庭では、広く知識を世界に求め、自分の生き方を考えるための話し合いをする。
- 行政では、世界の高齢者の生き方を学ぶための学級、講座の開催や、情報提供、交流の場を設ける。
- 地域では、外国人との交流の場を設ける。
  
- ◎ 家庭、行政を中核として、地域との連携を図りながら、世界の高齢者の生き方を学べるように努める。